

がん化学(放射線)療法レジメン申請書 (ver.3)

・記載不備がある場合は審査対象になりません。＊は記入不要です。

申請日	2025 年 03 月 24 日	受付番号	＊
診療科名	産科婦人科	がん種(コード)	＊
診療科長名		登録ナンバー	＊
申請医師名		承認日	＊
審査区分(下記をチェックしてください)		マスタ登録日	＊
通常審査を希望	☒	マスタ変更日	＊
迅速審査を希望	☐ 注 1)	最終改訂年月日	＊
迅速審査(患者追加)を希望 (過去登録歴あり)	☐ 注 1)	登録削除日	＊

注 1) 迅速審査は患者限定となります。

がん種	レジメン名	実施区分	使用分類	適応分類
子宮頸癌	EMCA TC+Pem Q3W	☐ 入院 ☐ 外来 ☒ 入院及び外来	☒ 日常診療(試験以外) ☐ 単施設自主研究 ☐ 多施設自主研究 ☐ 市販後臨床試験 ☐ 治験 ☐ その他	☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後補助化学療法 ☒ 通常化学療法 ☐ 大量化学療法 ☐ その他()

・申請されたレジメンは原則共用ですが、科限定を希望する場合(治験や特殊な化学療法)は右にチェックしてください。 ☐

注 2) レジメン名の命名法: ①疾患(臓器) ②薬剤(多剤の場合はコンセンサスの得られた通称) ③投与方法、④臨床試験の場合は試験の名称または研究グループ名称—この順番に命名してください。(day8, day15 などの投与日がある場合、オーダーリングシステム上は別レジメン名となりますので、承認後⑤として-day8や-day15 が加わります。)

(a)投与スケジュール記載例

薬剤名	投与量	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
薬剤A	Xmg/m ²	●																												
薬剤B	Ymg/m ²	●							●								●													
1コース期間			28日				目標コース数		☐ 有 (コース)																					

(b)投与日のスケジュール記載例

投与順序	投与薬剤名(商品名)	投与量		投与経路	投与方法	投与時間	その他コメント	投与日 Day(丸数字は投与順番を記載)															
		量	単位					1	2	8													
記載例	アロキシシ注	0.75	mg	側管	点滴	30分	抗がん剤投与30秒より開始																
	デキサート注	9.9	mg					①															
	生食	100	mL																				
1	生食	250	ml	メイン	点滴	分	ルートキープ	①	①	①													
2	デキサート注	8.8	mg	側管	点滴	30分																	
	生食	100	mL					②	②	②													
3	ゲムシタピン	1000	mg/m2	側管	点滴	60分																	
	生食	100	ml					③		③													
4	シスプラチン	100	mg/m2	側管	点滴	60分																	
	生食	500	ml						③														

様式3

(審査の参考にしますので簡単に記載してください。)

基準項目	化学療法歴(術後補助化学療法は除く)進行・再発子宮体癌患者	
適格基準	組織学的に上皮性子宮内膜癌と確定診断された患者(癌肉腫を含む) 化学療法未治療(1年以上前に完了した術後補助化学療法は除く)の再発患者 新たに診断された、FIGO 分類がⅢ期(測定可能病変を有する)/Ⅳ期(測定可能病変の有無は問わない)の患者 治癒切除困難で、術後測定可能病変を有する患者(有しない場合は不可) 女性、18歳以上、30kg以上、PS0-2(PS2は慎重投与)の患者 ミスマッチ修復機構欠損の有無は問わない。	
開始基準	血液毒性: ヘモグロビン > 10 g/dL ANC >1500/uL 血小板数 >10 万/uL 血性ビリルビン <1.5xULN クレアチニン Cr >51mL/min GOT・GPT <2.5xULN (肝転移を有する場合は<5.0xULN)	以下の非血液毒性が Grade 0-1 間質性肺炎/肺炎 大腸炎/下痢/胃炎 内分泌障害 1型糖尿病 肝機能障害 腎障害 筋炎/無力症 心筋炎/血管炎 脳炎/髄膜炎 皮膚/神経障害 Infusion reaction ぶどう膜炎
投与量 変更基準	● 発熱性好中球減少症又は 5 日間以上継続する Grade4 の好中球減少、Grade2 以上の抹消神経障害、Grade3 以上の非血液毒性が生じた場合、PTX を減量する(175mg/m²→135→110→中止) ● Grade3 以上の血小板減少又は Grade3 以上の非血液毒性が生じた場合は、CBDCA を減量する(AUC5→4→中止)。 ● 「開始基準」の非血液毒性に挙げる副反応が Grade2 の場合は、Grade 1 以下に回復するまでキイトルーダを休薬する。 ● キイトルーダ投与中に Infusion reaction が生じた場合、Grade0-1 なら投与速度を 50%減、Grade3-4 なら中止する。	

以下の①～③のうち、当該レジメンが該当する箇所にチェックしてください。

- ① 標準治療^{注3)}である。または、標準治療に準ずる治療である ☒
- ^{注3)} 標準治療とはエビデンスレベル「Ⅱ」以上であることを原則とします。
- ② 臨床試験の場合は IRB にて承認をうけている ☐
- ③ ①②いずれにも該当しない(通常審査での申請は不可) ☐

①、③の場合 エビデンスレベルを以下の表にチェックしてください。重要文献も添付してください。
また、当該レジメンの申請理由について記入してください。なお、③の場合は当該レジメンをどのような位置づけで実施しようとしているのか、ガイドラインに一応の記載がある、学会やコミュニティでのコンセンサスがある、診療科内でのコンセンサスがある、など、そのレジメンの信頼度について申請者がどのように判断した上で申請しているのか、が具体的に分かるよう申請理由に記載して下さい。

Level	内容	チェック欄
I	Phase III のランダム化比較試験の結果、優越性もしくは非劣性を示したもの	☒
II	Phase II の prospective study の結果により、標準治療になりうるものが学会などで広くコンセンサスを得ているもの	☐
III	Phase II などの prospective study	☐
IV	Retrospective study (case control study など)	☐
V	Case reports	☐
VI	専門家の意見	☐

申請理由 ^{注4)}	ミスマッチ修復機構欠損の有無にかかわらず、進行又は再発子宮体癌と診断された女性が初めての治療を考える場合、「カルボプラチン+パクリタキセル」療法に「キイトルーダ」を上乗せし、さらにキイトルーダ維持療法を行うことで、無増悪生存期間の延長が期待できる。
参考文献	N Engl J Med 2023; 388: 2159-2170.

^{注4)} このレジメンの妥当性や必要性を含め、申請理由を審査委員にわかりやすく記載してください。
無記入の場合には、審査対象となりませんのでご注意ください。なお、迅速審査の場合には、レジメンの説明に加えて、当該患者背景や使用する理由を記載してください。

②の場合

以下を記入ください。

1.試験名
2.試験期間
3. phase
4.IRB 承認の有無[予定]
プロトコール概要

①疾患名
②薬剤名あるいはレジメンの通称
③必要があればスケジュールやアジュバント等を記載の順にしてください。

レジメン名(登録名)	EMCA_TC+Pem_Q3W
休薬期間※	※
レジメンコード※	※
対象疾患	子宮癌
診療科名	
記入者名	

2017年12月14日改定(ver.3)

抗がん剤名(一般名)	投与量	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
パクリタキセル	175 mg/m^2	●																					●						
カルボプラチン	AUC 5	●																					●						
ペムブロリズマブ	200 mg/body	●																					●						
1コース期間		21 日																											

メインの点滴や負荷輸液の薬剤（外液や維持液など）をレジメンマスタに登録するのは任意ですが、レジメンの一部として登録するとオーダーの際に便利です。

[illegible]